

ヨハネによる福音書16章7-11節 「世における聖霊の働き」

1A もうひとりの助け主 7

1B 世に対して奮闘する御霊

2B 不法の人を引き止める方

3B 今の世から救われるキリスト

2A 世の誤り 8-11

1B 悪い者に支配された世 8

2B 神に愛された世 9-11

1C イエスを信じない罪 9

2C キリストの義 10

3C 世の支配者への裁き 11

本文

ヨハネによる福音書 16 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、15 章まで来ました。今日は午後に 16 章全体を一節ずつ見ていきますが、今朝は 7-11 節に注目したいと思います。

7 しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのです。去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はおいではなりません。でも、行けば、わたしはあなたがたのところに助け主を遣わします。8 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世の誤りを明らかになさいます。9 罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。10 義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。11 さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。

イエス様は、弟子たちに対して、ご自分に留まること、互いに愛し合うことを教えられました。キリストとの歩み、互いとの関係について語られた後、世との関係について語られました。それが、「世があなたがたを憎む」というものでした(15:18)。

弟子たちの考えは、世は自分たちのことを愛してくれると思っていたと思います。ローマは憎むでしょうが、けれども、メシアを求めているユダヤ人たちは、イエスがそのメシアであることを悟ったのであれば、メシアはローマを打倒して下さり、神の栄光を現して下さるのだから、その時に自分たちも認められると思ったかもしれません。けれども、その反対の反応をするということなのです。世が憎みます。

私たち、キリストを信じる時も、これまでの人生があまりにもわがままで、それを思い直して変え

たのだから、キリスト者となることは、周囲は喜んでくれるだろう、認めてくれるだろうと思ったことはないでしょうか？しかし、そのようにはうまくいきません。むしろ、家族の関係、友人・知人の関係はぎくしゃくして、自分は誰からも理解されない者になっていることが多いのではないのでしょうか？それは、イエス様は世の光であり、イエス様を信じた者は世から選り出されているので、自分を見ると人々はイエス様に触れられるからです。自分の闇を見ます。それで、闇を愛するのであれば、光の方に来ようとしません。その拒む姿を、私たちは目の前で見てしまうのです。

このような厳しい現実があることを、イエス様は弟子たちに 16 章に入っても語り続けます。同胞のユダヤ人から、それも神に仕えているとされる宗教指導者から憎まれるという過酷な経験をすることをイエス様は前もって告げられました。けれども、「16:7 **わたしはあなたがたのところに助け主を遣わします。**」と言われたのです。そして助け主であられる聖霊が、自分を憎むような世に対して、どのような助けを与えてくださるかを教えてくださいました。私たちは、14 章の学びで、聖霊が私たちの内に住まわれ、御父と御子が住んでくださるということを見てきました。信者の内における聖霊の働きです。16 章では、まだ神を信じない世に対して、どのようなことを行ったださるのかを教えてくださいました。

1A もうひとりの助け主 7

1B 世に対して奮闘する御霊

7 節でイエス様が言われる「**助け主**」について、14 章の学びで、「パレクレトス」つまり「そばに呼ばれて、援助する者」という意味であることを学びました。この世において、自分を独りにせず、そばに来て助けてくれる方です。聖霊は、世の初めの時から働いておられました。天地創造の時から働いておられましたが、ノアの時代に、人が悪を行っている時に、「創 6:3 **わたしの霊は、人のうちに永久にとどまることはない。**」と言われました。ここの「とどまる」というところのヘブル語 (יָדִין) は、「争う」とか「奮闘する」という意味合いがあります。つまり、悪を行っている世において、人々のうちで、それはいけないことであると奮闘している、争っていることは、永久にしていることではない、ということです。言い換えると、主が世を裁かれるまで、神の霊は人々に対して、悪が悪であることを明らかにしていく、ということでもあります。

そうした、悪を明らかにして、神の御心に服するように触発して、神に立ち返るように招き入れようとする働きを聖霊は、行われています。ユダヤ人たちは、キリストご自身にも、使徒たちにも反対しましたが、「使 7:51 **あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています。あなたがたの先祖たちが逆らったように、あなたがたもそうしているのです。**」迫害をしていたサウロ(後にパウロ)に対して、「26:14 **なぜわたしを迫害するのか。とげの付いた棒を蹴るのは、あなたには痛い。**」と言っていました。このようにして、聖霊は、神に逆らう心に、とげのついた棒のように心に突き刺す働きをしておられました。

2B 不法の人を引き止める方

世に対してこのようにして働かれますが、先にノアの時代で、いつまでもそうなるのではない、裁きがあることを教えておられます。聖書では、キリストが再び来られて世を裁かれることを教えていますが、その前に不法の人が現れることを教えています。人々を惑わして、神に言い逆らうように仕向ける人物です。反キリストとも呼ばれます。けれども、彼の現われを引き止める者があることを、パウロはテサロニケ第二で教えています。「2:6-7 不法の者がその定められた時に現れるようにと、今はその者を引き止めているものがあることを、あなたがたは知っています。不法の秘密はすでに働いています。ただし、秘密であるのは、今引き止めている者が取り除かれる時までのことです。」聖霊の働きによって、不法の秘密が働いていても、それでも不法の人の現われは抑えられています。今、私たち教会が聖霊の宮となっています。教会が地上に置かれているということは、それだけで世が、サタンの惑わしの中に突入するのを抑えていることになります。

3B 今の世から救われるキリスト

けれども、主は、いつまでもこの状態を続けることはなさいません。ちょうど、ロトと妻、未婚の娘たちがソドムの町を出たその後すぐに、天から火が降ってきて、ソドムの町を焼き尽くしたように、主は、不法を見聞きして心を悩ませている者たちが地上にいるかぎり、その裁きを控えておられません。「Ⅱペテ 2:7-9 そして、不道德な者たちの放縦なふるまいによって悩まされていた正しい人、ロトを救い出されました。この正しい人は彼らの間に住んでいましたが、不法な行いを見聞きして、日々その正しい心を痛めていたのです。主はこのようにされたのですから、敬虔な者たちを誘惑から救い出し、正しくない者たちを処罰し、さばきの日まで閉じ込めておくことを、心得ておられるのです。」

主が世から教会を取り上げられる時が来ます。それは、教会にとっては世からの救いであり、世にとっては、神の裁きの始まりであります。「ガラ 1:4 キリストは、今の悪の時代から私たちを救い出すために、私たちの罪のためにご自分を与えてくださいました。私たちの父である神のみこころにしたがったのです。」

2A 世の誤り 8-11

1B 悪い者に支配された世 8

このようにして、聖霊が世に対して、悪が広がるのを抑制する働きをしておられるのを見ることができましたが、イエス様が 8 節で次のように語っておられます。「**その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世の誤りを明らかになさいます。**」世の誤りを明らかにされます。

そもそも、世がどうして悪がはびこることになるのか？ヨハネは、第一の手紙でこのようにはっきりと告げています。「Ⅰヨハ 5:19 私たちは神に属していますが、世全体は悪い者の支配下にあることを、私たちは知っています。」悪い者が支配している、ということです。パウロは、コリント第二

で「4:4 この世の神」と言っています。

2B 神に愛された世 9-11

しかし同時に、主は世を愛されました。神に反抗する世、悪を選び取っている世を愛されました。「ヨハ 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」聖霊は、世に対してその過ちを明らかにされるのですが、その過ちは、神の世に対する愛のメッセージの中で明らかにされます。

1C イエスを信じない罪 9

「9 罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。」イエス様は、罪について、過ちを明らかにすると言われていました。この言葉を聞けば、いかに自分が嘘をついたのか？悪いことを考えたり、行ったりしたのか？そういうことを明らかにすると考えてしまいます。けれども、主は、罪についてとは、「彼らがわたしを信じないから」ということです。

イエス様は、他の時に、はっきりと、すべての罪は赦され、ご自身を冒瀆する罪さえ赦されると言われました。けれども、聖霊に対する冒瀆は赦されないとされました。「マタ 12:31-32 ですから、わたしはあなたがたに言います。人はどんな罪も冒瀆も赦していただけますが、御霊に対する冒瀆は赦されません。また、人の子に逆らうことばを口にする者でも赦されます。しかし、聖霊に逆らうことを言う者は、この世でも次に来る世でも赦されません。」なぜでしょうか？これは、イエス様に対して罵った人々がいました。十字架に付けられているイエス様を見て、いろいろな人が罵りました。しかし、主は彼らのことで、「何をやっているのか、知りません。赦してください。」と祈られたのです。ご自身がその十字架の上ですべての罪を負ってくださったからです。どんな恐ろしい罪だと思っても、それでも主は我が身に私たちの罪を負ってくださったのです。

けれども、もしその罪の赦しの供え物となられた方を拒むのであれば、罪の赦しのためのいけにえは残されていません。神の御怒りだけが残っています。その神の愛、すべての罪の赦しと清めを教えられるのは、聖霊ご自身です。聖霊が、主ご自身の十字架でなされたことを私たちに明かしてくださいます。その働きを拒むのであれば、それが永遠に赦されない罪ということになります。ですから、「罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。」ということになるのです。ヨハネは第一の手紙で言いました。「ヨハ 5:12 御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。」この方にこそ命があります。ですから、何が罪か？といいますが、この方を拒むことだということです。このことを、聖霊が過ちを明らかにしてくださいます。

2C キリストの義 10

10 節を見てみましょう、「義については、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。」義、正義について、聖霊が世に過ちを明らかにするのであれば、何か正

義の基準を示すことだと思いますね。けれども、ここでイエス様は、全く異なることを語っておられます。「**わたしが父のもとに行き、あなたがたはわたしを見なくなるからです。**」であります。これは、イエス様がよみがえられて、四十日経ってから、オリーブ山に行かれ、そこで弟子たちが見ている中で、天に昇られたことを指しています。「使 1:9 こう言ってから、イエスは使徒たちが見ている間に上げられた。そして雲がイエスを包み、彼らの目には見えなくなった。」つまり、イエス様がここで言われているのは、「わたしの義が、父に受け入れられる義だ」ということです。

世においては、何か自分が良いことを行っていることが、義の基準だと考えます。けれども、福音書を見れば、イエス様がおられ、この方が語られる中で、自分の義というものが、どれほどちっぽけであり、脆いものかを、嫌というほど知らされることとなります。私たちが、自分が正しいかどうかを見定めるには、他の人間と比べることにおいてどうか？を見るので、そこでイエス様と比べることをすれば、いかに自分が義の基準から落ちているかが分かります。その上、主はこう言われたのです。「マタ 5:48 ですから、あなたがたの天の父が完全であるように、完全でありなさい。」ここで、天の御国に入る戸が閉じられた思いになります。そうです、完全であられるキリストのみが天の御国に入ることができるのです。

そうであれば、誰も入ることができないではないか？だれも、神の義に達することができないではないか？と思われるかもしれません。その通りです！このままでは、だれも神の前に義とされないのです。これを明らかにするのが、聖霊なのです。自分で頑張ればなんとかなるということは、過ちなのだよと明らかにされるのが聖霊です。それで、義に到達できなかったのが、まさに義を律法の行いであるかのように求めたパリサイ派の人たちだったのです。「ロマ 9:31-32 しかし、イスラエルは、義の律法を追い求めていたのに、その律法に到達しませんでした。なぜでしょうか。信仰によってではなく、行いによるかのように追い求めたからです。彼らは、つまずきの石につまずいたのです。」イザヤは、イスラエルの残りの民が罪の告白をする時に、こう言いました。「64:6 私たちはみな、汚れた者のようになり、その義はみな、不潔な衣のようです。」自分たちの義など、所詮、不潔な衣のようなものなのです。

神は、律法の行いとは別の義を示されました。「ロマ 3:21-25 しかし今や、律法とは関わりなく、律法と預言者たちの書によって証しされて、神の義が示されました。22 すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別はありません。23 すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、24 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。25 神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥めのささげ物として公に示されました。ご自分の義を明らかにされるためです。神は忍耐をもって、これまで犯されてきた罪を見逃してこられたのです。」このようにして、キリストを信じることによって、キリストの義が私たちに、価なしに与えられました。罪人であるにもかかわらず、義とみなされるのです。キリストが私たちの罪を背負われて、罪人とみなされましたが、その

交換として、私たちがキリストの義を身に着けて、義人とみなされるのです。神は、私たちを見る時に、キリストにある私たちを見られます。ゆえに、キリストの内であって、私たちは正しく、ゆえに、キリストにあって、天の御国に入ることができるようにされたのです。

3C 世の支配者への裁き 11

こうして、罪について、義について、聖霊が過ちを世に明らかにされます。次に、さばきについてです。「**さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。**」

先ほど見たように、ここの「**この世を支配する者**」というのは、悪魔です。私たちが裁きについて、世に過ちを明らかにすると聞けば、最後の審判のことを思い出すのではないのでしょうか？すべての人が復活し、全能者の前に立ち、そこで書物が開かれて、行いに応じて裁かれる、そして火と硫黄の池に投げ込まれることを想像します。けれども、ここでイエス様はそのことを語っておられません。悪魔が裁かれたことを語っておられるのです。

主は、初めに人を造られた時に、彼に地を支配させようと命じられました。ところが、初めの人アダムは、神に罪を犯したので、その支配権が悪魔に移ってしまいました。それから、悪魔が世の支配者となったのですが、しかし神はすぐに、贖いの預言を行われたのです。「創 3:15 わたしは敵意を、おまえと女の間に、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」このようにして、悪魔の脳天を打ち砕くという預言を神は既に下さいました。そして、それが、キリストがかかたが打たれる時、つまり十字架に付けられる時です。十字架への道は、闇の力が支配する時でした。しかしそれはまた、悪魔が罪と死の力を私たちに持っているところが、その力を失ってしまう時でもありました。「ヘブ 2:14-15 そういうわけで、子たちがみな血と肉を持っているので、イエスもまた同じように、それらのものをお持ちになりました。それは、死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼし、死の恐怖によって一生涯奴隷としてつなされていた人々を解放するためでした。」

したがって、キリストにあって神の子どもにされている者たちは、悪魔が自分に何ら力をもっていないことを知ります。「Iヨハ 4:4 子どもたち。あなたがたは神から出た者であり、彼らに勝ちました。あなたがたのうちにおられる方は、この世にいる者よりも偉大だからです。」

いかがでしょうか？御霊が、世に過ちを明らかにするというのは、イエス・キリストご自身に命があり、この方が身代わりに十字架で死なれるということ、他に道はないよ、ということ明らかにすることに他なりません。それは、狭い門です。狭い道です。そのことを、聖霊が世に対して明らかにしてくださいませ。そして、御霊は私たちを通して、この世に対して証しを立てることができます。「Iコリ 2:4 私のことばと私の説教は、説得力のある知恵のことばによるものではなく、御霊と御力の現れによるものでした。」キリストの十字架が聖霊によって明らかにされますように。